

長野県信濃美術館整備検討に係る基本構想(素々案) Ver. 1

未定稿

長野県県民文化部文化政策課

【○:第1回委員会の意見、●:信濃美術館の職員の声】

コンセプト	役割	機能	整備検討委員会等の主な意見
長野県の文化芸術の拠点として「信州の文化芸術」を国内外に発信する美術館	○文化芸術の拠点にふさわしい展示	<ul style="list-style-type: none"> ・信州ゆかりの作品(池田満寿夫コレクション、県内書家の作品など)の常設展示 ・全国レベルの企画展や国内外の著名美術館(ボストン美術館、国立美術館など)とのコラボ展の開催 ・県が支援する若手芸術家の作品(現代美術等)の収集・展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○集客のためにはコレクション力と企画展を招くことのできる施設であることが必要。 ○世界的に見て魅力的な施設にすべき。 ○サイトウ・キネン等の松本市は「動」の文化、善光寺や東山魁夷館のある長野市は「静」の文化のイメージがある。「書」や善光寺の宝物の活用も検討してほしい。
	○信州ゆかりの作品等の収集・保存	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を適切に保存でき、中長期的に見て対応可能な広さを持つ収蔵庫 ・国宝、重要文化財等の展示が可能な施設(公開承認施設) ・緊急時における他館の美術品のレスキューやシェルターの機能 	<ul style="list-style-type: none"> ○サイトウ・キネン等の松本市は「動」の文化、善光寺や東山魁夷館のある長野市は「静」の文化のイメージがある。「書」や善光寺の宝物の活用も検討してほしい。 ●メディアアート(先端的テクノロジーを用いたアート)等、現代の様々な作品に対応できる施設。 ●信州の文化芸術(県内の美術館、信州ゆかりの作家など)の情報の管理・保全機能が必要。
	○文化芸術に関する情報の管理、発信	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県の文化芸術情報のアーカイブの構築、発信 ・県内美術館の収蔵品や県ゆかりの作家に関する情報の整理、活用 ・国際化に対応した多言語による文化芸術情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディアアート(先端的テクノロジーを用いたアート)等、現代の様々な作品に対応できる施設。 ●信州の文化芸術(県内の美術館、信州ゆかりの作家など)の情報の管理・保全機能が必要。
だれもが楽しみ、学べる顧客目線を重視した美術館	○交流の場	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に楽しめる施設(こども広場、体験教室等の開放スペースなど) ・障がいを持つ方も楽しめるユニバーサルデザインの企画・施設(アールブリュット展、手で触れる美術展など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○あらゆる年齢層が楽しめる美術館という意味でのバリアフリーの施設 ○お客様目線の施設をめざすべき。○県民が親しみをもてる名称について検証・検討すべき。
	○学びの場	<ul style="list-style-type: none"> ・県民が気軽に創作活動や発表に使える施設(県民ギャラリー) ・小中学生の美術教室、生涯学習の講座、ドーセントの養成 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品中心でない、県民が気軽に足を運べる美術館 ●身障者用設備(トイレ、EV等)の充実 ●できれば平屋、2階以下の低層の建物が望ましい
	○憩いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ、レストラン、ミュージアムショップ、公園・広場など ・クールシェア・ウォームシェアスポット 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示室以外の充実(図書コーナー、子供の広場、会議室等) ●授乳室等の設置 ●作品管理のための冷房を活かしたクールシェアの場の提供 ●十分なスペースの駐車場
「芸術家」や「学芸員」がつどいつながる美術館	○文化芸術活動の支援・協働の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・県ゆかりの若手芸術家(next等)の発表の機会や創作活動の場の提供 ・アーティスト・イン・レジデンス等による芸術家育成の拠点 ・文化芸術活動を活性化するため、県民や芸術家等が協働する拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術家や学芸員にやさしい美術館 ○「アーティスト・イン・レジデンス」での活用
	○美術館ネットワークの拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の美術館ネットワークの拠点 ・県内美術館の学芸員の資質向上(ファシリテーターの養成など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○3つのネットワークが考えられる。 ①長野市や県の他の博物館等とのネットワーク ②県内の美術館、学芸員のネットワーク(学芸員のリサーチセンターとしての機能) ③愛知のトリエンナーレ、新潟越後妻有のトリエンナーレとの連携、金沢21世紀美術館、20世紀型の豊田美術館との連携等広域的なネットワーク
	○調査研究の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に関する国内外の最新情報や、文献資料の収集、データベースの整備(文化芸術のリサーチセンター・プラットフォーム) ・自主企画や共同企画のための調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> ●バックヤード(収蔵庫等)の充実や展示室の安全性 ●文献調査ができる研究書籍の充実 ●文化財レスキューのための施設と専門職員 ●プロパー職員の増員
国宝・善光寺や城山公園と一体となり、文化的ゾーンを創出する美術館	○文化的ゾーンのシンボル	<ul style="list-style-type: none"> ・東山魁夷館及び周辺の施設や環境と調和し、大きな集客力を持つ芸術作品としての建築物 ・信州の観光の拠点(周辺での観光フェア等の開催) ・文化芸術による「まち」のにぎわいの創出(善光寺門前エリア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○善光寺、城山公園、美術館の一体化が大切。善光寺から美術館までの連続性を考えるべき。 ○人の回遊性を高めていく。○長野駅から善光寺までの人の流れを活かす。 ○東山魁夷プラスαが必要。その点で公園整備のあり方が重要。
	○文化的ゾーンの一体感の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺や城山公園等周辺と一体化した景観の育成 ・善光寺や周辺施設との連続性や観光客の回遊性を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ○本館を再活用(市民ギャラリー等)するなど、好いとこ取りを検討すべき。 ○林昌二氏設計の本館は、正面階段をシンボルとした優れた作品。 ●善光寺や公園から入りやすいルート設定。 ●美術館の基本的機能は3K(鑑賞・交流・観光)
	○信州のおもてなしの拠点(迎賓館)	<ul style="list-style-type: none"> ・信州の文化芸術を堪能できる「信州の応接間」 ・国内外からの来客のおもてなしの場 	<ul style="list-style-type: none"> ●門前町長野市とのまちづくり等での連携・協調 ●周辺の景観を活かす。 ●国立美術館周辺のようなイベントによるにぎわいの創出、観光振興